

名鉄広見線(新可児駅～御嵩駅)沿線

戦国三武将

ゆかりの地めぐり

ウォーキングマップ

森乱丸

明智光秀

可児才蔵

明智光秀

1528?-1582

可児市で生まれたと伝えられ、大河ドラマの主人公に抜擢されたことでも注目を集めた戦国武将です。明智光秀は、代々可児郡の明智荘に住んだ土岐氏の一族(土岐明智氏)が出自とされています(『美濃国諸旧記』)。弘治2年(1556)、美濃国の支配者であった斎藤道三が息子の義龍に討ち取られると、道三方であった明智氏も義龍によって攻められて滅亡し、光秀は可児を出たとされています。

雌伏の時を経て、織田信長の家臣となってからは、近江や丹波攻略など各地で武功を挙げ、信長からの信頼も厚かったといわれています。天正10年(1582)6月に、本能寺の変において主君である信長を討ったことから「謀反人」「逆臣」といった印象の強い人物でしたが、近年はそのイメージの見直しが進んでいます。優れた政治能力、軍事的力量によって織田信長に重用され、また家臣を思いやる優しさや文化的教養を兼ね備えた人物であったことが再評価されています。

森乱丸

1565?-1582

森乱丸は、永禄8(1565)年に美濃金山城で生まれました。父は織田信長の重臣である森可成、母は林通安の娘(妙向尼)で、兄弟には猛将として知られる長可、後に森家を継いだ忠政、坊丸、力丸などが居ました。

幼くして信長に仕え、本能寺の変の直前まで小姓として、秘書的な役割を果たしていたことが知られています。年少の頃から利発で機転が利いたという逸話が多く残されており、信長もそんな乱丸を可愛がっていたようです。

天正10年(1582)4月に武田氏が滅亡すると、美濃金山城主であった兄の森長可が信濃国海津城(現長野市)に知行替えとなりました。その際に、信長より美濃金山城と付近の領地を与えられ、美濃金山城主となりました。しかし、この2か月後に本能寺の変が起こり乱丸も討死したため、乱丸が実際に入城して政治に関わることはなかったといわれています。可成寺(兼山)には歴代城主の可成、長可とともに乱丸の墓所があります。

可児才蔵

1554?-1613?

可児才蔵は、御嵩町出身と伝えられている武将です。才蔵は後に福島正則に召し抱えられるまでの間に、明智光秀、前田利家、羽柴秀次など、次々に仕官先を変えていたと伝えられています。彼らの下で戦場を渡り歩いていた才蔵の活躍と武勇は、当時の人々の間にも伝わっていたようで、多くの逸話が各地に残っています。

天下分け目の関ヶ原の戦いでは、才蔵は笹の枝を背中に立てて戦い、敵の首を取ると目印として笹を差し、自分の手柄であることの証拠としていました。そして、この戦いで17人の首を取った才蔵の強さに感嘆した徳川家康が、「笹の才蔵」の通り名を与えたとされています。

時期は不明ですが、才蔵は明智光秀に仕えており、本能寺の変では、光秀に従って本能寺を攻めたともいわれています。その他に、本能寺で敵将の首を取り損ねた者に対し、手本を見せて取り方を教えたと記されている文献もあります。

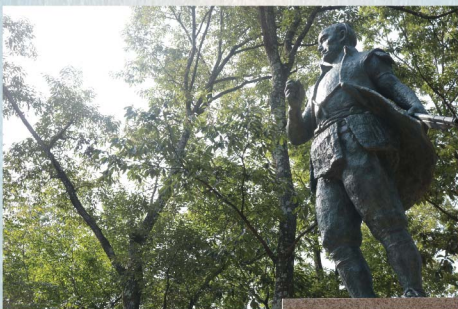
しかし、才蔵の全容を明らかにできる史料はまだ見つかっていないため、その生涯は謎に包まれています。



明智光秀コース

明智駅-ぎふワールド・ローズガーデン-顔戸駅

明智城跡



明智光秀が生まれ、落城するまでの約30年間を過ごしたとされています。康永元年(1342)、美濃の守護、土岐頼清の次男である頼兼が城を築き、弘治2年(1556)、明智光秀の叔父にあたる光安が城主であった時、稲葉山城主斎藤義龍の攻撃を受けました。この時、光秀は光安より明智家再興を託され逃げることに成功しましたが、光安は自刃し明智城は落城しました。



明智城 本丸跡石碑

天龍寺



境内には明智氏歴代の墓所があり、本堂には日本一大きい光秀の位牌(184cm)が納められています。毎年6月には「光秀供養祭」が行われています。

ぎふワールド・ローズガーデン



国内外の最新品種など、約6,000品種20,000株もの多彩なバラを植栽した世界最大級のローズガーデンが見どころです。世界に誇るローズガーデンに加え、「ネモフィラ(春)」「ヒマワリ(夏)」など季節ごとに大面積で花を觀賞できるガーデンや、地上45mの高さから園内を一望できる「花のタワー」、岐阜県下有数の大型複合遊具などもあり、夫婦、カップル、友人、ファミリーなど幅広い層で楽しむことができます。

🕒 9:00-17:00 📅 休 火曜日(休日の場合は翌平日休み)
🎫 無料-1,050円(高校生以下無料)
※変動料金制試行のためHPで確認してください。
※イベントやメンテナンスなどによる営業時間の変更や臨時休園があるため、HPをご覧ください。

道の駅 可児ッテ

可児市周辺の新鮮な野菜や特産品の販売と、それらを活用した飲食コーナーがあります。賑わい広場ではイベントや催しごとをたくさん開催し、人や物や文化の交流をおこないます。



🕒 9:00-18:00 📅 休 年始数日休業



森乱丸コース

明智駅-兼山エリア

美濃金山城跡



天文6年(1537)、斎藤正義(妙春)によって築城された烏峰城は、永禄8年(1565)に織田信長の家臣森可成が城主となった際に金山城と名を変えました。のちに信長に仕えた乱丸が城主になりましたが、そのわずか2ヶ月後に本能寺の変が起き、信長と運命を共にしました。森家の信州川中島戦封後には城は壊されたといわれており、その痕跡が今も残っています。平成25年に「美濃金山城跡」として、国史跡に指定されました。



可成寺

妙向尼が、宇佐山城をめぐる攻防戦(1570)で戦死した夫・森可成の菩提を弔うため長可を開墓とし、栄庵禅師を請じて創建した森家の菩提寺です。乱丸をはじめ可成、長可、坊丸、力丸の墓があり、市の文化財に指定されています。また、森長可が着用したといわれる腰当(県指定文化財)が残っています。



常照寺



森家の家老であった林長兵衛為忠によって建立されました。有髪と法体の二幅の妙向尼の画像や、乱丸が愛用したといわれる槍の穂先が残されています。妙向尼は美濃金山城主森可成の妻であり、乱丸の母でもある人物で、信長と石山本願寺との和睦に尽力していました。また、妙向尼画像(法体・有髪)各一幅と妙向尼の墓所は、市の文化財に指定されています。

したことも知られています。また、妙向尼画像(法体・有髪)各一幅と妙向尼の墓所は、市の文化財に指定されています。

可児市戦国山城ミュージアム

戦国時代に築かれた国史跡美濃金山城跡をはじめ、可児市内に残る各山城跡の特徴や歴史を紹介しています。また、神社や仏閣など多くの文化財が残る兼山の城下町の魅力も紹介しています。美濃金山城跡の出土品や森長可の遺言状の複製が展示されています。



🕒 9:00-16:30(入館は16:00まで)
📅 休 月曜日(月曜日が祝日の場合は開館)、祝日の翌日、および年末年始
🎫 大人210円 その他各種割引あり

可児市観光交流館



山城めぐりの拠点施設及び観光案内所です。館内1階は、戦国時代の本陣をイメージした内装で、陣幕や甲冑、槍や弓などを展示しています。甲冑着付け体験のほか、様々な体験が楽しめます。(有料・要予約)。また、全国各地の約250もの城跡パンフレットが閲覧できます。

🕒 8:30-22:00(甲冑着付け体験及び物販は17:00まで)
📅 休 年末年始(12月28日-1月4日)



蘭丸ふるりの森

古城山に広がる自然豊かな公園で、桜や紫陽花、紅葉と、四季をお楽しみいただけます。



可児才蔵コース

御嵩駅周辺

大寺山願興寺



弘仁6年(815)、伝教大師によって創建されたとされる天台宗の古刹です。二度にわたる火災により本堂等は焼失しましたが、幸いにも本尊・薬師如来像をはじめ諸仏像は焼失をまぬがれました。本堂も地頭の力によって再興され、二度目の焼失後も近在の農民の発願により、素朴な造りではあるものの、板一枚、柱一本を持ち寄って見事再建されました。このあたりでは通称「蟹薬師」と呼ばれ、広く親しまれています。現在、薬師如来像ほか24駄及び本堂が国指定の重要文化財に、また、鐘樓門が県指定文化財になっています。願興寺に伝わる「大寺記」には、「越前で朝倉義景が滅ぼされた時に逃げ出した身重の側室が、放浪の末に願興寺に隠れ住むことになり、その時生まれた男の子が可児才蔵と名乗るようになった」旨が記されているため、願興寺は可児才蔵生誕の地として知られています。

🎫 2名以上:1名あたり700円 1名:1,000円(事前予約制)

本堂は2017年から約10年かけて解体修理中のため、
本堂周辺は立入りできませんが、霊宝殿は拝観できます。

大智山愚溪禅寺



臨済宗の古刹であり、京都妙心寺派の名僧で、のちの京都の龍安寺を造り上げた「義天玄承」によって開創されました。義天はこの愚溪寺で既に石庭の構想を持ち、「臥竜石庭」として表現をしていました。御嵩富士を背景とした大方丈は、心清める美しさを有しています。

中山道みたけ館



🕒 平日10:00-18:00 土日祝9:00-17:00
📅 休 月曜日(祝日の場合は開館)第3火曜日、毎月最終金曜日
年末年始(12月28日-1月4日)



商家竹屋
📅 休 中山道みたけ館に
準ずる
御嶽宿わいわい館
🕒 9:00-17:00
(喫茶営業は10:00-15:00)
📅 休 水曜日、年末年始



御嵩城址公園

御嶽宿本陣



明智光秀コース

明智駅-ぎふワールド・ローズガーデン-顔戸駅

所要時間
約1時間30分

滞在時間は含みません



ウォーキング
コース全長 ▶ 6.5km

明智駅 AKECHI

27分 (1.8km)

1 明智城跡本丸跡

13分 (0.7km)

2 天龍寺

14分 (1.1km)

3 ぎふワールド・ローズガーデン

25分 (2.0km)

4 道の駅 可児ッテ

11分 (0.9km)

顔戸駅 GOUDO

明智光秀ゆかりの地

明智荘

あけちのしょう

明智光秀の出自については諸説がありますが、通説では土岐氏の流れをくむ「土岐明智氏」の一族であるといわれています。

土岐明智氏発祥の地とされる可児郡の明智荘は、現在の可児市北東部から御嵩町西部にかけて存在した荘園です。

明智光秀の生まれた時代に土岐明智氏が明智荘一円に勢力を誇っていたという確実な史料は見つかっていませんが、『美濃国諸旧記』では初代の土岐頼兼より光秀に至るまで、代々可児郡の明智荘に土岐明智氏が住んだとしています。



顔戸城址

顔戸城は、室町時代初期、美濃国の有力氏族であった斎藤氏の構築になるとされ、城と言っても居館と考えられています。城は東西約180m、南北約150mの規模で全体が台形状を呈しており、外周は、敵の侵入を防ぐ深い堀と高い土壁がめぐらされています。平地部の城館としては、規模が格段に大きく、土塁や堀は良好に残っている大変貴重な平城であり、明智荘随一とも言われています。城主とされる斎藤妙椿は、守護代であった兄の斎藤利永が亡くなる前後から政界へと乗り出し、応仁の乱(1467)では妙椿の動向は、中央(京都)をもゆるがすと言われるほどの存在であったと伝えられています。



森乱丸コース

明智駅-兼山エリア

所要時間
約1時間40分

滞在時間は含みません



ウォーキング
コース全長 ▶ 3.9km

明智駅 AKECHI

YAOバス(有料)13分

元兼山役場前バス停

2分 (0.1km)

1 可児市観光交流館

2 可児市戦国山城ミュージアム

24分 (1.5km)

3 蘭丸ふるりの森

17分 (0.9km)

4 美濃金山城跡

22分 (1.1km)

5 常照寺

3分 (0.2km)

6 可成寺

1分 (0.1km)

城戸坂バス停

YAOバス(有料)13分

明智駅 AKECHI



可児才蔵コース

御嵩駅周辺エリア

所要時間
約1時間10分

滞在時間は含みません



ウォーキング
コース全長 ▶ 5.3km

御嵩駅 MITAKE

11分 (0.8km)

1 大智山愚溪禅寺

11分 (0.8km)

2 大寺山願興寺

1分 (0.1km)

3 御嶽宿わいわい館

2分 (0.2km)

4 中山道みたけ館

1分 (0.1km)

5 御嶽宿本陣跡

1分 (0.1km)

6 商家竹屋

25分 (1.7km)

7 御嵩城址公園

17分 (1.5km)

御嵩駅 MITAKE